

技術者として社会をつくる人になる

東海大学で建築と土木工学を学んだ先輩たちは
卒業後に社会でどんなふうに活躍しているのか。
大学で学んだことを生かして歩み続ける卒業生を紹介します。



それぞれの作品ごとに環境があり、
想いがあり、出会いがある。
設計の仕事は大切な経験であふれています。

上村 育美さん

Ikumi Kamimura

2005年度大学院工学研究科修士課程修了
東 環境・建築研究所 一級建築士

海と生きることを選んだ人たちのために。

2011年3月11日に東日本大震災が発生し、東北から関東にかけての広い範囲を津波が襲い、沿岸部に壊滅的な被害を引き起こしました。震災前約1万人が暮らしていた小さな港町の宮城県女川町は、被害が甚大で、死者・行方不明者は800人以上、全壊した建物は約3,000棟に及びました。震災後に多くの住民が町を離れていき、現在の人口は7,000人を下回っています。

上村さんの仕事は、ここに新たな商店街をつくることでした。新しく生まれ変わった女川駅から、港へ向かってまっすぐのびる遊歩道を中心に、約30軒の店舗を建設する大がかりなプロジェクトです。

上村さんの設計した建物は、木の質感を生かした落ち着いた外観で、すぐそばの海から、潮の香りが漂います。女川町の人たちは住居エリアを高台に移して安全を確保しながら、海の見える景色を捨てずにこの商店街を建設しました。「この町に残って復興するんだという町民の皆さんの熱い思いをくみ取りながら、観光客だけでなく、地元の皆さんにもここに集まるのが楽しいと思ってもらえるような施設を目標に設計しました。いかにもデザインを頑張りましたっていうのは好きじゃない。ちょっと力の抜けているようなデザインを、これからも力を込めてつくってきたいです。」